



歩車共存のまちづくりに向けた社会実験の様子（本文中に関連記事があります）

目次 / contents

ひと・まち・地域

地域社会の新たなニーズに積極的に対応するため、新たな経営体制を確立しました / 森脇宏 2

歩車共存のまちづくりに向けたワークショップ&社会実験「パークタウン・ストリート」 / 山本昌彰・松尾高志・三木健治・橋本晋輔 3

きんきょう

暮らしの豊かさを実現するための住まいとは？～コミュニケーションが魅力のシェアハウスの広がり～ / 嶋崎雅嘉 5

遠くて近い、スペインとドイツ～再生可能エネルギー、環境政策、まちづくりについて考える～ / 杉原五郎 6

婚活ノルディックウォーキングが開催されました / 依藤光代 8

監査役のごと / 三輪泰司 10

アイ・スポット NEWS 11

まちかど

いま、名古屋の都心を流れる堀川が面白い。 / 間瀬高歩・木下博貴 12



地域社会の新たなニーズに積極的に対応するため、 新たな経営体制を確立しました

～引き続き、ご指導・ご支援をお願いします～

平成 24 年 7 月

代表取締役社長 森脇 宏

さる6月末の株主総会において、新たなアルパックの経営体制を確立しましたので、新経営体制と、それによる今期の経営方針等について、ご報告いたします。

昨年3月の東日本大震災以降、社会と地域のあり方が大きく問われており、エネルギー、産業、国土構造、地域構造、コミュニティなど、大きく変革していくことが必要になっています。しかも、超高齢社会、人口減少社会と、長期不況の同時進行という厳しい時代の流れの中で、この変革を進めていくことが求められています。こうした地域社会の新たなニーズに適切で柔軟な対応を進めるとともに、潜在化しているニーズの発掘と提案にも取り組み、地域づくりに積極的に貢献していくため、新しい経営体制を確立しました。

1967年のアルパック創業以来の45年間で、社会と地域の発展に貢献してきた経験と蓄積を活かし、次の新たな時代に積極的に対応しうる組織へと改革を進めていきたいと思っております。引き続きご指導・ご支援をよろしく願いいたします。

【新経営体制】

取締役 杉原 五郎 代表取締役会長
取締役 森脇 宏 代表取締役社長
取締役 馬場 正哲 副社長
取締役 堀口 浩司 副社長、東京事務所長、
名古屋事務所長
取締役 松本 明 京都事務所長
取締役 中塚 一 大阪事務所長

取締役 畑中 直樹 大阪事務所副所長、環境担当
取締役 高坂 憲治 建築設計計画担当
取締役 高野 隆嗣 地域産業担当
取締役 柳井 正義 総務部長、企画政策推進室長
取締役 金井 萬造 相談役（非常勤）
取締役 尾関 利勝 中部担当（非常勤）
監査役 柳沢 厚

名誉会長・顧問 三輪泰司

【経営方針（骨子）】

1. 地域社会の新たなニーズに積極的に対応し、地域づくりに大きく貢献します。

このため、提案力（ソリューション力、政策提言力等）、実行力（ノウハウ、ネットワーク等）、発信力（情報媒体の活用、ブランド形成等）など、総合的な力量を高めます。

2. 組織改革を引き続き進め、地域社会に貢献できる強い組織をつくります。

前期に、専門性の強化、全社の総力結集を重視して、組織再編に取り組みました。また、給与体系の見直しも進め、全社員の力が大いに発揮される強い組織をつくります。

3. 地域づくりへの貢献と社員の生活を支えうる安定的な経営基盤を形成します。

地域づくりに貢献できるとともに、それを担う社員の生活も支えうる安定的な経営基盤の形成を目指し、営業・利益など、主要な経営指標を好転させます。



歩車共存のまちづくりに向けた
ワークショップ & 社会実験
「パークタウン・ストリート」
大阪事務所／山本昌彰・橋本晋輔
京都事務所／松尾高志・三木健治

「歩車共存のまちづくり」って？

みなさん、「歩車共存のまちづくり」と聞いて、どんなイメージをもたれるでしょうか。「歩車共存道路」とは、「快適な歩行者空間をつくるために、車道部分を蛇行させるなどして、自動車の速度を抑え、歩行者との共存を図る道路」のことをいい、一般的には、比較的幅員の狭い商店街や住宅街などによく見られます。おそらく、トランジットモール…、コミュニティ道路…、そんなイメージでしょうか。ここ、周南市では、その「歩車共存道路」を中心商店街にもなっている幅員20mの幹線道路において実現させようというもので、実現すれば、おそらく全国的にも珍しい事例となるはずです。

「パークタウン構想」の実現に向けて

今回紹介する取り組みは、周南市中心市街地活性化に向けた関連のもので、中心市街地活性化計画では、将来イメージを「まちのストックを活かした、豊かな心を育む『公園都市（パークタウン）』の創造」としています。周南市の中心市街地の魅力向上に向けて、街なかに市民、来街者が憩える空間をつくり、「自然と歩きたくなる、ひと中心の街なか」をつくりあげていくこと、これが「パークタウン構想」の目指す思想です。

近年、人口減少、少子高齢化、空き店舗の増加など、いろいろ言われる時代の中で、周南市でも何か次世代に「これぞ周南」といえるものを継承しよう

と、地元のまちづくり会社、建築士会などが立ち上がりました。そして、地元関係者が一丸となって、「パークタウン構想」実現に向けてその第一歩を踏み出したのです。

周南市民の『強い思い』と『こだわり』が凝縮したワークショップ

まず、どんなイメージの道路にするか。ワークショップでは、東京大学の羽藤英二先生にコーディネートしていただき、公募市民、地区内地権者、建築士会の方々、行政職員などに参加いただきました。最初は「こんな暮らし方がしたい」といった“使う側”の市民の視点から話しあい、「ゆっくり歩きたい」「周辺と連携させたゆとりと楽しさ」「人が一番」などのテーマのもと、一方通行…、スラローム…、お洒落な並木…、四季を感じる緑と空間…、ホテルのいる水路…など様々なアイデアが出されました。これを最終的には、班ごと（3班）に200分の1の模型までを作成しました。まさに、周南市民の『強い思い』と『こだわり』がここに凝縮していると思います。

「パークタウン・ストリート」への“扉”～社会実験～

次のステップとしては、ワークショップで議論した内容の中で、できることを実現していこうという目的で「社会実験」を実施させました。



模型を作成するワークショップの様子



水路を取り入れた大胆なイメージの完成模型



しかし、もうおわかりのように、ワークショップでまとめたテーマは、どれも“ハードルの高い”問題ばかりです。そこで、あまり無理をせず、3年くらい時間をかけて徐々に社会実験の規模を大きくしていこうということとなり、今回は、テーマを「空間の演出とその使い方」一点に絞り込みました。

「空間の演出とその使い方」をテーマにするうえで、一番の問題は、より多くの人にどのように心地よい歩行者空間を体験してもらえるかです。今回の実験では、商店街やまちづくり会社等が開催する休日の歩行者天国のイベントに併せて実施するとともに、事前の平日に、隣接する歩行者専用道路となっている商店街でも、緑豊かな歩行者空間を体験してもらうことにしました。「できることから始める」です。

平日は、観葉植物やガーデンデッキを商店街に設置、休日は、歩行者天国の中、ウッドデッキを製作して車道部分に設置し、心地よい歩行者環境をつくり、多くの人に憩える空間を楽しんでいただきました。まだ、車と共存、すなわち「歩車共存」にはなっていませんが、これまで、周南市になかった「新しい憩い空間」として認識していただき、「パークタウン構想」の真髄を、強烈にPRできたはずで、名づけて「パークタウン・ストリート」への“扉”はしっかりと開かれたと思います。



観葉植物で商店街を演出した平日の社会実験の様子

「パークタウン・ストリート」の実現に向けて

今回のワークショップと社会実験は、盛況のうちに終わることができ、利用者の方からも「是非このような道路を本当に実現してほしい」などの感想を多くいただいております、先進的な取組みであったと自負しています。

しかし、まだ扉は開かれたばかりで、社会実験第一段階にすぎず、「パークタウン・ストリート」の実現に向けて、これで終わってしまっただけでは意味がありません。（少なくとも、今回製作したウッドデッキは次年度も使わなくては（笑）。）実現に向けてはこれから本当の山場を迎えることになります。関係者の合意形成、安全な通行規制と交通処理等、次年度以降いろいろと超えなければいけない大きなハードルがあると思います。

私たちはこれからも、今回一緒に取り組んできたメンバーと連携しながら、次のステップに向けて取り組んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、ワークショップから社会実験まで通してご尽力いただきました、地元まちづくり会社や建築士会の方々、コーディネートしていただいた羽藤先生方、その他関係していただいた方々には、この場をお借りして御礼申し上げます。



車道にウッドデッキが登場した休日の社会実験の様子



きんきょう

**暮らしの豊かさを実現するための住まいとは？
～コミュニケーションが魅力のシェアハウスの広がり**

大阪事務所／嶋崎雅嘉

町家の保全・活用を進める不動産事業

シェアハウス「京だんらん東福寺」を手がける(株)八清^{はちせ}さんは、京町家を保全・活用する分野の不動産事業者として注目される企業です。

<http://www.share-hachise.jp/tofukuji/top.html>

今回、ご縁があり、八清さんに「京だんらん東福寺」の事業についてお話をお聞きする機会をいただきましたので本紙上で報告させていただきます。

八清さんは、いくつかの事業スキームを展開し、多様な町家の保全を実現化しています。

町家オーナーが様々な事情により手放さなくてはならなくなった町家を買取り、または仲介して、新たなオーナーとのマッチングを図っています。その際に、老朽化が進んでいる町家をリフォームして新しいオーナーを募集する形もあれば、現状のまままで売買した後にリノベーションを手がける形もあります。

例えば、裏庭付きの町家物件では「京町家ファーム」として、ナスやキュウリがとれてストーブで焼き芋のできる、畑付きの町家としてリノベーションして魅力アップを図っています。

また、町家に「宿」という付加価値をつけて、収益物件とする「京宿家」という事業展開も行っています。

町家活用型「シェアハウス」という事業スキーム

そのような事業展開にも一つ、「シェアハウス」の事業展開が加わりました。

京宿家の事業スキームと同じように、収益物件として付加価値をつける考え方ですが、より大規模な町家の活用を検討する中から出てきた事業スキームです。大規模な物件は1オーナーの居住用としては大きすぎるため、シェアハウスという展開が考えられました。

住んでみたい「京だんらん東福寺」

八清さんが手がけられたシェアハウス「京だんらん東福寺」には、6人の入居者が暮らしています。各入居者は6畳程度の個室を確保しているほかに、共用のリビングなどが充実しています。入居者は20～30歳代の社会人であり、入居者の多くは、寝るとき以外はリビングで過ごす時間が多いようです。シェアすることによる家賃の低減の部分ではなく、入居者同士のコミュニケーションが居住の魅力になっています。

「京だんらん東福寺」のような物件は、収益性に対する評価だけでなく、「京都の町家保全に一役買っている」という観点

からも評価され、投資物件としての魅力が高くなっています。

シェアハウスの日常的な管理として、プライベートスペース以外の共用部については、管理会社が掃除などを行います。実際には近所の主婦を雇用して掃除などにあたってもらうわけですが、近所の方ということもあり、入居者とのあいさつはもちろん、おすそ分けがあるなど、コミュニケーションが生まれているようです。

「京だんらん東福寺」は、町家の持つ豊かな空間をシェアすることの喜びを共有するとともに、町家保全という京都のまちづくりに貢献している「誇り」や、まちの中に脈々と引き継がれているコミュニティとのつながりを得られる魅力的な住まいです。

「豊かな生活」が評価される住宅市場の視点

これまでの賃貸住宅は「間取り」「設備」「駅からの距離」でその評価が決まっていたのですが、「京だんらん東福寺」のようなシェアハウスは「コミュニケーション」を付加価値として、住居としての魅力が高く、入居者からも評価されています。

これからの住まいを考える上で、住宅のスペックだけではなく、その住宅に暮らすことでどのように豊かな生活を送ることができるのか、という視点が住宅市場の中で広がるのが想定されます。



きんきょう

遠くて近い、スペインとドイツ～再生可能エネルギー、環境政策、まちづくりについて考える～

代表取締役会長／杉原五郎

ヨーロッパは、遠かった

このたび、京都商工会議所会頭ミッション「スペイン、ドイツへの視察」に参加した。視察の目的は、スペインの再生可能エネルギー事情を探ること、ドイツの環境政策とまちづくりの実情を見聞すること、でした。参加者は、立石会頭を団長に、柏原副会頭、福永国際交流委員長をはじめ、京都府、京都市、民間企業、報道機関など多彩なメンバー、総勢26名でした。

5月18日の夜、伊丹空港を飛び立ち、深夜の羽田を経由して、19日の早朝6時頃にドイツのフランクフルトに到着。乗り継いで、最初の訪問地マドリッドに着いたのは、19日の昼頃で、伊丹からマドリッドまで実質24時間の旅となり、「ヨーロッパは、確かに日本から遠い」と実感した。

スペインの再生可能エネルギー政策はすごい

21日午前、再生可能エネルギーコントロールセンター CECRE を訪ねた。スペインの送電管理会社レッド・エレクトリカ社の警備は厳重で、一人ひとりパスポートチェックを受けた。スペイン全土の電力の需給状況を刻々と

チェックし、コントロールしているとのこと。この仕組みがないと、風力や太陽光発電などの再生可能エネルギー（RE）を効率的に活用できない。「日本でもREを最大限に活用していくためには、発電と送電を分離して、電力の需給をコントロールするシステムを確立していくことが不可欠」と理解した。

22日午前、マドリッドから高速鉄道でバルセロナに移動し、バルセロナの郊外にあるコラデラス風力発電所を視察。地中海を望む山の上に、巨大な風力発電施設が林立し、強い風を受けてプロペラがブルンブルンとうなっている様子は壮観で、思わず「すごい」と叫んだ。1981年から風力発電に取り組んでいる発電所の副責任者（欧州グリーンエネルギー協会会長、バルセロナ大学教授）は、日本で風力発電を普及させるために何が必要かとの問いに対して、「本当にやる気があるのか、これが最も重要」と指摘された。日本人としてこの言葉はずしりと堪えた。

マドリッドではジェットロ所長、バルセロナでは総領事と、それぞれ懇談する機会があった。スペインの経済事情、再生可能エネルギーの固定買取価格制度（FIT）、バルセロナと日本との文化交流などについてレクチャーを受けた。

石の文化と広場のある街、マドリッド、バルセロナを歩く

マドリッドでは、プラド美術館、王宮、世界遺産・セゴビア、マドリッド市内を視察した。スペインの歴史、街並み、人々の表情などを観察して、異文化を肌で感じた。「石の文化は、重い」と、紙と木の文化・日本との違いを痛感した。

バルセロナでは、ガウディのサクラダ・ファミリアを視察し、中心街のランブラス通り、ウォーターフロント地区などを歩いた。バルセロナは、首都マドリッドにはない解放感が溢れ、観光客で賑わい、東京に対する関西と共通した親しみを感じた。

ドイツ・ハイデルベルグの環境政策とまちづくり

24日、ドイツのフランクフルトに移動し、アウトバーンで2時間ほどのところにある、歴史都市ハイデルベルグを訪れた。環境ジャーナリスト松田さんの紹介で、古い市街地、広場や路地を歩いて街並みを視察。まちの中心には、クルマの乗り入れを制限し、人々が安心して歩き、集い、



ドイツの大学都市・ハイデルベルグ

しをベースに公共の利益を優先する都市計画とまちづくりが息づいていることにかすかな感動を覚えた。

ハイデルベルグ市は、2050年にはゼロエミッションを実現する（CO²をゼロにする）という挑戦的な目標を掲げているとのこと。鉄道ヤード跡地であるパーンシュタット地区（116ha）の再開発現場を市の環境政策担当者に案内していただき、断熱を徹底的に追求したパッシブ住宅、パッシブオフィスについて説明を受けた。人口14万、学生数3万の大学都市でもあるハイデルベルグでの意欲的な取り組みは注目値する。

ちなみに、ドイツは、10年後の2022年には電力の原発依存をゼロにする、と宣言している。

「原発にはリスクがある。再生可能エネルギーに全面的にシフトしていくのもリスクが伴う。しかし、ドイツは、チャレンジする。」とのハイデルベルグ市環境局担当者の力強い言葉はじっくり噛みしめたいと思った。

参加者との友好と交流の旅

このたびの会頭ミッションを



ハイデルベルグ中心市街地の街並み

通じて、参加された方々と親しく交流する貴重な機会を得た。立石会頭とは、バルセロナでの昼食、ハイデルベルグでの夕食の際、近くで懇談し、オムロンの会社経営のことなど親しくお話をすることができた。柏原副会頭、福永国際交流委員長をはじめ、多くの参加者と、食事の時、移動の飛行機やバスの中、ホテルのロビーや空港、街を歩きながらいろいろな話題で気軽にやりとりさせていただいた。

今回のスペイン、ドイツの旅は、私にとっては、参加者とのやりとりを通じて人となりを理解し、多くのひとと仲良くなれる、「得がたい友好と交流の旅」となった。

スペインとドイツは、遠くて近い

5月18日から28日までの11日間は、過ぎてしまうと、あっという間であった。今回の旅行中、いろいろなことを学び、感じ、考えさせられたが、日本のこれからをどうしていけばいいのかということがずっと頭から離れなかった。日本の経済、環境・エネルギー政策、まちづくりのこれからを考えると、



ハイデルベルグの再開発中のパーンシュタット地区

「覚悟と実践が大切」と痛感した。

日本とヨーロッパは、最新鋭機ボーイング787に乗っても11時間～13時間という、うんざりするほどの距離にあるが、政治、経済、文化などの面で深く緊密に結びついていることも実感した。ひと、モノ、マネー、そして情報が国境を越えていきかうグローバル時代にあって、地球の彼方にある国や都市の歴史、文化、経験に学びつつ、自国の強みや弱みを自覚して、地球のために、自国のために、自らの住んでいる地域のために、努力していくことがますます重要、と思い知った。

今回の会頭ミッションは、私にとって、「スペインとドイツは、遠くて、近い」ことを実感する旅であった。



マドリッドの広場にて



バルセロナ郊外のコラデラス風力発電所



きんきょう

婚活ノルディックウォーキングが開催されました

大阪事務所／依藤光代

5月27日に生駒山の山麓でノルディックウォーキングを通した婚活イベントが行われました。主催者の「いこ増ッスル地域総合型スポーツクラブ」の方とのご縁で、サポーターとして当日のイベント運営に協力させていただきましたので、概要や雰囲気をご報告します。

スポーツ、出会い、定住促進？

ノルディックウォーキングは、ポール両手に持って歩くスポーツで、足だけでなく全身を使うことができる運動です。男女とも40名ずつの参加で、予想を上回る数となりました。

参加者はウォーキングをしながら生駒のまちを知ることができ、かつ異性との出会いもある、一石三鳥のイベントでした。ゆくゆくは—もし結婚したら—生駒に住んでもらいたい。スポーツを通じたまちづくりを目的とされているスポーツクラブの方々には、そんな想いもあります。

さわやかな汗と構えない出会い

大きな流れは、ノルディックウォーキングで生駒のまちを歩きながらの「アピールタイム」、生駒山麓公園に到着しダッチオープンによる鳥の丸焼きや手作りピザを食べながら歓談する「食事タイム」、もっと色々な人とおしゃべりする「フリータ

イム」でした。ウォーキングでいい汗をかき、アウトドアの開放的な気分ですべてで食事し、参加者どうし盛り上がっていました。そして最終的に、8組のカップルが誕生しました。

何しろはじめての婚活イベントだったので、スポーツイベントについては百戦錬磨の主催者スタッフの方々にとっても、予想外の出来事も起こったようです。それでも手作りイベントの雰囲気もご愛嬌で、参加者として来てくれた数名のアルパック若手所員は、みんな次回も参加したいと言ってくれています。

情熱とネットワークでアイデアを実現

アイデアはあるが実現化するためのお金がないとのお悩みを、市民の方からもお聞きすることがあります。今回のイベントは、会費制で行われました。またスタッフも、主催者であるスポーツクラブのメンバーをはじめ、市民ボランティアや商工会議所青年部を巻き込み、多数の人が関わっています。成立したカップルに贈られたプレゼントは、生駒市内のお店のチケットであったり、自動車販売店で特典が受けられるチケットなど、市内のお店からも協力を得ていました。それもこれも、色々なネットワークを駆使して、段取りや当日運営等を行われた、担当者の熱い想いがあったからこそ実

現したのだと感じました。

これからも色々な人を巻き込んで、さわやかなイベントの数々が生み出されることを期待したいと思います。



『たけまるくん』も応援

監査役のしごと

名誉会長・顧問／三輪泰司
(NPO 平安京・代表理事)

5月・6月は、団体・企業の総会シーズン。それに先だって、監査役のお仕事が忙しい。監事とか監査役とかは、会長や社長を勤めた後、少し丁重に扱うが、ひまな隠居しごとくらいに思っている向きも居られるようですが、そうは行きません。責任があるのです。

減価償却費の不思議

現在、法人の理事・取締役・顧問5。監事・監査役5。すべて、無報酬。まず、一般社団法人京都建築設計監理協会は、監事が一人でしたので、会計監査からまじめに勤めました。その他に、親族が経営している料理店と、温泉旅館の役職もあります。

いろいろな業種・業態を経験すると面白いことに気付きます。

アルパックや、業種の近いソフ

ト開発の会社では、減価償却費は殆どネグレクティブ。飲食業になると少し大きくなり、旅館業ではものすごく大きくなります。まさに設備産業。

「償却」したお金は、消えてなくなるのでしょうか。資産の部の現預金に入っています。預金が増えていると安心するのは早い。性質が違います。学校法人の監査をすると判ってきます。

学校法人になると、会計の様子が変わります。学校法人会計の資金収支計算書では、教育研究費にも管理費にも減価償却費が計上され、非常に大きい。大学等も一大設備産業。それで「消費収支計算書」で、減価償却に見合った額、時により、はるかに大きく、施設設備基金として、積むことができます。利益が上がっても税金は払いませんし、基金つまり自己資本を強化し、再投資して行けます。

大学は学生募集に失敗して“消滅”することはあっても倒産しないように出来ています。社会福祉法人会計もほぼ同じ。「基金」を見て事業をするか判断すべきです。

“投資”の概念があるか

役所の仕事ばかりしているとこのあたりの原理に疎くなってきました。一般会計には、減価償却の概念はありません。ちょっとした旅館でも、減価償却の計算は大仕事。府県の資産は膨大。

とても計算できないでしょう。

上下水道・交通等公営企業は、税金はないのに、減価償却できる。遠慮なく儲け、再投資する。高槻市の公営企業審議会を20年も勤めて勉強したことです。積極的に出れば、サービスを向上し、黒字経営にすることができるのです。

アルパックではどうしたか

アルパックは、レッキとした株式会社。ところが償却資産は僅かしかない。利益を上げたら税金が大きくかかる。ヘンなのは、税理事務所などが、税金をなるべく払わないように指導すること。「節税」のうまい税理士がもてる。一方、経営で一番しんどいのは、資金繰り。アルパックのように、官公庁の仕事が多いと、入金に波がある。年度末近く、1・2月には資金が枯渇します。中小企業経営者の悩みも同じで、果てしなく資金繰りに追われるのです。

西山卯三先生は、西淀川の鉄工所の生まれ。「税金は払え、それ以上に稼いで、蓄えろ」と教えられました。36歳くらいで創業した若造に商売のツボを教えたのです。

經常利益が上がれば、税金を払い、利益金処分で、任意積立金を積みました。経理の専門家は、「次期繰越にしても同じです」と言います。そうかも知れません。同じく貸借対照表の右欄の資本

の部であり、それに見合っ左欄で現預金が増えます。しかし、同じお金でも、性質が違います。利益金処分は株主総会議決事項。資金繰りのために簡単に取り崩せない。

定期性預金にしておいて、これを担保に短期借入します。利息が少し掛かりますが、自己資本は減りません。経理として見るか「経営」として見るかで違ってきます。

この財務政策は、良かったのかどうか、気になっています。以後、社長は資金調達に走り回る経験をしなくて済むようになりました。

おかげで、中小企業のオジサン・オバサンの苦勞が判らなくなり、「あんたら結構な身分ですな」と距離が出来てしまったのではないかと。

「反対側」に興味をもつ

ちょうどバブル期でした。配当もはずみましたが、それ以上に、任意積立金に回しました。コンビを組んだ歴代の総務部長。尾関・金井君は技術系ですが、いずれも商売人の出で、あたりまえと処理しました。サラリーマンの家庭の出ですと、説明に手間が掛かったでしょう。

毎月決まった所得があるサラリーマンと、来月は生活費が出せるかどうか判らない中小零細企業の家庭では、経済観が全く違ってきます。



「稼ぐに追いつく貧乏なし」
「金は天下の廻りもの」は、商
売人の経済観。サラリーマン家
庭の財布は、エンドユーザーと
いうように終着駅。「廻す」と
いう観念がないし、投資といえ
ば、株を買うとか、他人頼みで、
自分で事業を起すための投資で
はありません。

でも、心配するのは早いです。
自分と「反対側」に興味を持つか
どうかです。なるべく若いうちに。

商店街のおじさんと駄弁って、
なんとなく売上高を聞きだすな
どできます。しかし、いい歳し
て、しかも社長などの肩書きが
あると鳶や大工さんに「これは
何？」と気軽に聞けません。下
手に聞くと、逆に会社ごと信用
を無くします。

中小企業経営者も一律ではあ
りません。「社長」になって、そ
れが借金であっても、お金がたく
さん動くのをみて、舞い上がり、
何をしてもしよいかと思込む人も
けっこういます。借りた金は返さ
ないといけません。借金取立て、
税金徴収、取られるのはけしから
んとなります。口で簡単に「中
小企業の経営支援」と言っても、
日々直面する信用金庫の貸出掛
や支援係は、たいへんなご苦労
と思います。

西山先生は、私の実家にも来
ておられて「こいつは、老舗の
商売人のせがれ、経営のことは、
ちょっと教えたらわかる」。そ

れより、若いうちに技術、それ
も「手に職」を勉強させんと、
と思われたのでしょうか。東京へ
「修行」に行かされたのですが、
それはまたの機会に。

あと2つ、監査報告書作成の
お仕事があります。監事や監査

役は、事業監査の責任がありま
す。経営政策の評価から、提案に
までおよびます。GROSS / NET
管理や、従業員1人当たり収支
といった原単位を使う分析法な
どを駆使して、欠陥を見抜く仕
事が手早くできるのは、アルパッ
クでの「修行」のおかげです。

◆アルパックのホームページをリニューアルしました

いつもアルパックのホームページへアクセスいただき、ありが
とうございます。このたびホームページの一斉リニューアルを行
いました。訪問者の皆さまにより使いやすく、よりわかりやすい
ものとなるよう、従来のホームページから全面的に構成を見直し
ました。

リニューアルにあたり、トップページのアドレス (<http://www.arpak.co.jp/>) に変更はありませんが、トップページ以外の
ページについては、アドレスが変更になっております。各ペー
ジをブックマーク等に登録されている方は、お手数をおかけしま
す変更をお願いいたします。

これからもまちづくり情報などの最新情報を随時ご案内してい
きますので、今後ともアルパックをどうぞよろしく願いいたし
ます。



◆貴重な意見をありがとうございました

前号のニュースレターに宛先確認はがきを同封したところ、多
くの方からご意見・ご感想をいただきました。編集委員会では、
今後の編集の参考にさせていただきます。これからもニュースレ
ターをどうぞよろしく願いいたします。

(アルパックメディア編集委員会)



アイ・スポット NEWS

「御堂筋×ジャズ」を開催しました

6/14（木）に、音楽プロデューサー野々村明氏を招いたトークイベント「御堂筋×ジャズ」を開催しました。

野々村氏が主宰する結成40年以上の歴史を持つ関西を代表するビッグバンド「グローバルジャズオーケストラ」の演奏や、プロデュースに関わった「御堂筋フェスタ」、ミナミ界隈の各会場でライブが楽しめる「ミナミジャズウォーク」の舞台裏をお話頂きました。

さらに、ジャズのすそ野を広げる活動として、新しいビッグバンドメンバーを募集し組織化する「ミナミジャズオーケストラ」、高校の合宿での指導など、多岐にわたる活動の一旦をご紹介します。

トークは音楽の世界に身を置く氏が感じる音楽シーンの現状、ライブ空間と行政やまちづくりとの関連、さらには演奏と著作権の問題などへと発展し、あつ



という間の2時間でした。詳細の内容は後日展示等でご紹介したいと思います。

次回は8/8（水）、「ジャズ×デザイン」で開催

今回は、都心・まちなかを舞台とした個性的なライフスタイルを提案するトークとして、ジャズをデザインを通じて発信し続ける、新進気鋭のクリエイター藤岡宇央氏を迎え、ジャズとデザインの愉しみ方を語ります。同時開催で氏のデザインした作品展示も予定しています。（7/25から）

藤岡宇央氏のホームページ

<http://www.jazgra.com>



大阪大学 21 世紀懐徳堂 i-spot 講座を開催中

大阪大学と大阪市計画調整局の協同による「21 世紀懐徳堂 i-spot 講座」が開催されています。大学の教員が講師を務められ、年に2期・6講座ずつ開講することとしており、前期の講座が開催されていますが、毎回満席となるなど好評です。詳細はアイ・スポットにお問い合わせください。

大阪大学 21 世紀懐徳堂のホームページ

<http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>

アイ・スポットのホームページができました

アイ・スポットのイベント情報等を発信するホームページができました。上記以外にもいろんなイベントを企画、随時更新していきます。

アイ・スポット NEWS

<http://www.arpak.co.jp/i-spot/>

※アイ・スポットは、淀屋橋にある大阪市のまちづくり情報発信施設です。アルパックでは大阪市から管理・運営を受託しています。





いま、名古屋の都心を流れる堀川が面白い。

名古屋事務所／間瀬高歩・木下博貴

今年5月、フラワーフェスティバル2012が堀川納屋橋界隈で開催されました。フラワーフェスティバルは、かつて、生活物資の輸送路だけでなく、名古屋市民の憩いの場となっていた堀川を再生する機運を高めようと開催されたものです。今年は、「堀川を花とひかりで賑わいを」をテーマに、市民の手で沿岸に400鉢の鉢花と広場にほんぼりを展示。ゴンドラの体験乗船やゴンドラ結婚式、400名の中学生の大コーラス、その他市民団体による各種イベント、作品展等が開催されました。行き交う人々も足を止め、多くの方が参加されました。

堀川納屋橋界隈ではフラワーフェスティバルをはじめ、一年中、ユニークなイベントが開催されています。例えば、堀川を活かしたまちづくりの意識高揚を図るため開催される「堀川ウォーターマジック」や、産学官の連携により堀川の浄化・美化に貢献できるロボットのコンテスト「堀川エコロボットコンテスト」等です。なかでも、面白いと思うのは、「なやばし夜イチ」。地元若い方が中心となり、毎月第4金曜の夜に開催されています。手作り看板と赤提灯の先には、飲食ブースから作品展示ブースまで様々なお店が出店され、夜の水辺を楽しむことができます。

堀川納屋橋界隈では、平成16年の「河川敷地占用許可準則の特例措置（国土交通省）」の通達により河川敷地にオープンカフェ等一定の施設

を設置することが可能となったことから、これを活用した遊歩道整備や納屋橋南地区市有地整備活用事業施設の整備等が進められ、少しずつ水辺に顔のある風景が見られるようになってきました。また、今年から名古屋市では「なやばしランプリン（堀川納屋橋地区にぎわい事業）」として、諸条件はあるものの誰もが親水広場や遊歩道でイベント開催が可能となる事業を展開しています。日頃、通勤などで行き交う人の多い納屋橋にあって、ここが堀川再生に向けた大きな舞台となりつつあります。

堀川は、名古屋城築城に合わせて開削され、以来400年間にわたって名古屋の歴史とともに歩み、人々の暮らしやまちづくりに密接に関わりを持ってきました。沿岸は、納屋橋界隈のにぎわいだけではなく、400年の歴史が点在しており、延長16.2kmには地区毎に様々な風景をみることができます。

現在、名古屋市では、これら地区毎の特徴を活かし、堀川を軸とした一体的なまちづくりを進めるにあたり、民・産・学・官が連携して取り組むための指針となる堀川まちづくり構想を策定中です。また、納屋橋は来年架橋100周年にあたることから、名古屋のにぎわいスポットとしてまだまだ注目を集めそうです。是非、御来名の際にはお立ち寄りいただきたいと思えます。



フラワーフェスティバル2012の様子



なやばし夜イチの様子



納屋橋南地区市有地整備活用事業施設

アルパック(株)地域計画建築研究所

Architects Regional Planners & Associates・Kyoto

<http://www.arpak.co.jp> E-mail info@arpak.co.jp

本社

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四條通り高倉西入立売西町 82

TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所 〒540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F

TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478

名古屋事務所 〒460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F

TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760

東京事務所 〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-5-11 スクエア九段ビル 1F

TEL(03)3288-0240 FAX(03)3288-0221

九州事務所 (株)よかネット 〒810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128